

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ジャベル株式会社 関西支店	階数	地上3F
建設地	東京都練馬市・井手町	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	20人
気候区分	B地域	年間使用時間	2,160時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年9月 予定	評価の実施日	2014年7月17日
敷地面積	20,046㎡	作成者	肥後隆司
建築面積	6,693㎡	確認日	2014年7月17日
延床面積	13,207㎡	確認者	肥後隆司

外観ベース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響) (V/T)	2-3 大項目の評価 (レダチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 88% ③上記②以外の 88% ④上記+ 88%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.9	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.9	LR2のスコア = 2.4	LR3のスコア = 2.4

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 く、階高を高くし、快適になりように配慮しました。</p>	<p>その他</p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。建築基準法を満たすように、窓での換気に配慮しました。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。ペースを広くとるように配慮しました。</p>
<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。駐車スペースに配慮しました。</p>	<p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。断熱性能に配慮しました。</p>
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。冷媒に配慮しました。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。ライフサイクルCO₂排出率に配慮しました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される